



西北大学学生による植樹

① 中国：秦嶺山脈 森林・生態系回復

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、11本の松の苗木を植林しました。

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫である秦嶺山脈で動物の移動を妨げる林道への植林と、動植物の生態研究を通じて森の生物多様性を回復します。2010年度は12kmの道路に9,500本の松の苗木を植林しました。キンシコウの生態についての研究も継続しています。

② 中国：内モンゴル緑化

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、1人の小学生が環境教育を受けました。

沙漠化が進んでいる中国の内モンゴル自治区において、経済的価値の高い沙棘(サジー)の植林と、現地の小中学生に環境教育を実施しています。2010年度は現地の事情で苗基地が突然の移転を余儀なくされましたが、新たな苗基地を設置し、環境教育と植林活動を継続しました。



制作した教材を使って環境教育



北海道・雪原で生き物の痕跡探し

③ 日本：学校の環境教育支援

エコカード会員×894人の支援(寄付金500円/人)で、1校の小中学校が1年間、環境教育を受けました。

自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと、ノウハウや機会を探している学校をつなぎ、環境教育プログラムを提供しています。2010年度は日本国内9校の環境プログラムを支援しました。1回だけのイベントではなく、屋内と屋外、季節をとりいれた1年間のプログラムによって、身の回りの自然環境へのより深い理解をめざしています。



苗を紙ネッコンにつめる

④ タイ：北タイ山岳地帯 共有林地図作成

エコカード会員×780人の支援(寄付金500円/人)で、1つの村の共有林の地図と「村の百科事典」を作成しました。

北タイ山岳部で、地元住民が森を利用して持続可能な暮らしを営むために、国有化された森を「共有林」として申請するのに必要な地図づくりをしています。また、村のさまざまな情報をまとめた「村の百科事典」を地図とあわせて作成します。2010年度は雨期の豪雨もあって、目標村数の7村中4村にとどまりましたが、活動地域の拡大や他の組織との連携を強化できました。



「村の百科事典」が完成しました

⑤ パプアニューギニア：熱帯雨林保全

エコカード会員×7人の支援(寄付金500円/人)で、1人の農民が5日間農業研修を受けることができました。

パプアニューギニアで、安定した食糧自給や現金収入のために、農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2010年度は、研修センターや村に出張して定置型有機農業を教えるとともに、精米機の扱い方の指導や有機肥料(ボカシ)のつくりかた、養豚技術も指導しました。政府からも高い評価を受けており、奨学金による研修生も受け入れています。

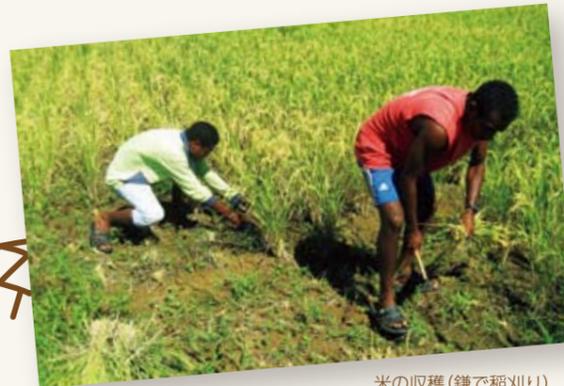


稲の収穫と落ち穂拾い

⑥ ソロモン：熱帯雨林保全

エコカード会員×360人の支援(寄付金500円/人)で、研修生1人が1年間、農業研修を受けました。

ソロモン諸島にて、過剰な焼畑農業を抑制し、安定した食糧自給や現金収入を確保するために、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2010年度は、21人に1年間の研修を実施。さらに、日本の専門家による土壌の分析と、稲作の技術指導を行いました。2011年度はさらに研修内容を改善し、活動を継続します。



米の収穫(鎌で稲刈り)

⑦ 日本：種まき塾

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、6本の苗木を供給しました。

「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、樹木の種や実生(種から発芽したばかりの木)を集めて成長させ、植林する人たちに苗木を提供しています。地域に元々ある樹種を植えることが、本来の植生回復につながります。2010年度はエゾマツやミズナラなど8,027本の苗木を提供し、育苗・種まき体験には延べ227人が参加しました。

⑧ フィリピン：循環型農業支援

エコカード会員×71人の支援(寄付金500円/人)で、現地女性のエリ蚕飼育指導者1人を育成しました。

フィリピンのパラワン島で、女性の経済的自立のために、キャッサバの栽培指導とエリ蚕の飼育・糸紡ぎ・編み物・織物を教え、さらにこれらを指導できるトレーナーを育成しました。2010年度はプロジェクト最終年として、品質管理と組織の運営システム、販売ルートを確立。現地女性たち自らの運営のもと、自立に向けたスタートを切ることができました。



自分でつくったエリシルクを手に喜ぶ現地女性たち



⑤ 中国：シルクロード緑化

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、31本のサジーの植林ができました。

シルクロードの地、中国の黄土高原では急速に沙漠化が進んでいます。そこで、経済的な価値があり現地の気候に合う沙棘(サジー)を植林するべく、苗育成基地をつかって、地元の農民に苗を供給しています。2010年度は12万本の植林ができました。また、中国緑化基金会と中国人口福利基金会から、2009年ベストパートナーとして表彰されました。

この広い山々がいつか緑の大地に



白神山地の巨木の前で

⑥ 日本：野口健 環境学校

エコカード会員×178人の支援(寄付金500円/人)で、“環境メッセンジャー”1人が誕生しました。

自分から環境に対して働きかけ、多くの人にメッセージを発信できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に、アルピニストの野口健さんを校長とした「環境学校」を開催しています。2010年度は佐渡島と白神山地で各1回開催し、延べ31人が参加しました。佐渡島では、トキの見学と農作業、自然観察を行いました。白神山地では、山とともに暮らすマタギから、自然の大切さを学びました。

⑦ 日本：さとやま学校

エコカード会員×37人の支援(寄付金500円/人)で、小学生1名が学校田で稲作を体験し、環境教育を受けました。

「里山」の保全・再生と、次世代を担う人材の育成を目的に、長野県飯綱町の耕作放棄地を活用し、農業教育プログラム「さとやま学校」を提供しています。飯綱町の農家が苗を提供、都会の学校にある田んぼでお米をつくり、農家が出張授業を行うことで、食農や環境への意識の向上をめざします。また、雑穀栽培や農村都市交流ツアーなども行っています。2010年度は、小学校3校で164人が参加しました。



学校田で収穫指導

コスモ石油 エコカード基金 プロジェクト紹介

皆さまからの寄付金が、2010年度は11プロジェクトの支援に使われました。各活動のプロジェクトパートナーとともに、日本や世界各地で行った活動をご報告いたします。

より詳しい情報が掲載されております。「コスモ石油エコカード基金」のホームページを、ぜひご覧ください。

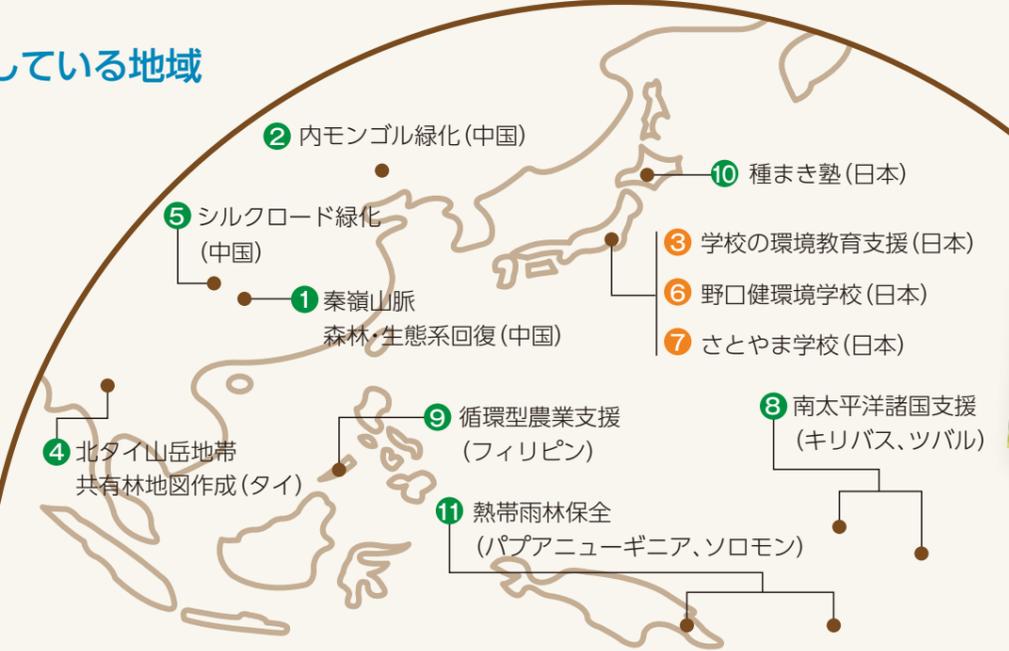
<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>

ホーム > 環境活動 > コスモ石油エコカード基金

国内外的環境修復と保全プロジェクト 次世代の育成プロジェクト

プロジェクトを展開している地域

プロジェクト概要
当基金は2002年4月に発行した「コスモ・ザ・カード・ハウス[エコ]」と、2006年6月に発行した「コスモ・ザ・カード・オーパス[エコ]」の会員(以下「エコカード会員」)の皆さまからの年間500円の寄付金と、コスモ石油グループの寄付金をもとに、地球環境貢献活動「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開し、今年で10年目を迎えました。



⑧ キリバス：南太平洋諸国支援

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、マングローブを2本、植えることができました。

南太平洋にあるキリバスは海拔が低く、海水面の上昇や波による土地の浸食が起っています。そこで、海岸の浸食を防ぐためのマングローブ植林を、地元の若者や子どもたちとともに行っています。2010年度は、9月と翌2月に、あわせて9,841本のマングローブの種子を植えました。2011年度も地元の住民たちと共同で植林をつづけます。



以前植えたところも順調に育っています

⑨ ツバル：南太平洋諸国支援

エコカード会員×32人の支援(寄付金500円/人)で、環境教育ツールを1つ作り、子どもたちがごみ問題について学ぶことができました。

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングローブ植林と、子どもたちへのごみ問題の啓発活動を行っています。2010年度は3千本のマングローブの種子を植えました。また、子ども向けのごみ処理教育用に何度でも遊べるボードゲームをつくりました。さらに地元から要請のあった、他の島での植林可能性を調査しました。2011年度から、新しい場所でも植林を開始します。

植林の様子

